

おれんじニュース



No 246

2010年9月号



野河地から井原山へ アンの滝 7月25日

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	9月			10月		
運営委員会	14日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	12日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	8日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	28日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	26日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



まずはコース確認で～す。ふむふむ？



最初の登りは汗だらだらきついねえ～



あいかかわらず元気そのものTさんNさん



ネムの花も咲いていてしばし見とれて



そろそろオオキツネノカミソリおでまし



頂上にて全員集合。



蛤岳の蛤岩に登ってみました。最高！



蛤岳の頂上にて。やっぱ、暑いね？



9月の山行計画

部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月 日	10日(金)	19日(日)	25日(土)～26日(日)
山 名 (行 事)	背振山(1055m)	阿蘇外輪山: 俵山(1094.9m)	鹿児島県高隈山系、 御岳(1181.6m)、 第一刀剣山(635m) 第二刀剣山(660m)
地 図	東背振	立野、阿蘇山	上祓川
集合 出発	JR 西諫早駅 7:00	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10	JR 諫早駅裏 6:00 JR 西諫早駅 6:10
帰着 時間	17:00	19:00 頃	19:00
歩行 時間	4.5時間	5 時間	1 日に 4 時間～4・5 時間
難 易 度	初心者	初心者	初心者
交通 手段	自家用車	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	バンガロー
温泉	なし	有り	有り
参加費	1500 円程度	5000 円	15000 円
申込期限	満員になり次第	満員になり次第	満員になり次第
集約	江崎	田中	佐原
備考	昔ながらの自然あり 背振山地の最高峰	マツムシソウに あえるかも	タカクマホトギス を見られるかも
感想提出	9/20	9/30	10/10

多良岳研究山行

(前日までに川原さんまで申し込む)

8月17日(火)、24日(火)、31日(火) 西諫早駅8時集合

集まったメンバーでその日に行きたいコースを歩きます。マイカーです。(1000円程度)

夏のアルプス計画

○北アルプス黒部源流 赤牛岳(山小屋6泊)

9/3(金)諫早駅発6:21～9/9(木)諫早着

※申込は川原まで



10月の山行計画

部	技術研修部	ひまわり& 自然保護部	山行部
月日	1日(金)2日(土)	22日(金)	24日(日)
山名 (行事)	郡岳から五ヶ原 いっきに縦走	天山(1046.2m)	久住山群 黒岳(1587m)
地図	多良岳	古湯、小城	大船山
集合出発	JR西諫早駅 午後8:00	JR西諫早駅7:00	JR諫早駅裏 6:00 JR西諫早駅 6:10
帰着時間	1800頃	17:00頃	20:00頃
歩行時間	13時間	3.5時間程度	6.5時間程度
難易度	中級健脚	初心者	健脚むき
交通手段	マイカー	マイカー	マイクロバス
宿泊施設	郡岳登山口にテント泊	日帰り	日帰り
温泉	なし	温泉有り	なし
参加費	1500円	2000円程度	5,000円
申込期限		満員になりしだい	満員になりしだい
集約	岩田	江崎	田中
備考	これからの山にむけて 体力をつけるその3 1日の夕食は済ませて おく。2日の 朝食と昼食、行動食 各自持参	広大な草原の山、 雄大な展望も魅力	遠望すると山全体が黒 ずんで見えることで黒岳 九重山群のなかで一番 東に位置する。
感想提出	10/12(火)まで	11/3(水)まで	11/6(土)まで

技術研修部より

- 9月16日(木) 沢登り(JR西諫早駅9:00集合)
 9月23日(祝) セルフレスキュー(JR西諫早駅9:30集合)
- 10月23日(土) セルフレスキュー(JR西諫早駅9:30集合)
 10月28日(木) 岩登り(JR西諫早駅9:00集合)

第12回 登山レフェスティバル in 黒木

日時:9月4日(土) 16:00 受付~5日(日) 15:30 終了

場所:大村市黒木キャンプ場

内容: 9/4=開会、交流会、各会の紹介、山行報告、キャンプファイヤー等。

9/5=下記の通り

班	コース	出発時間	内容:摘要
1班	自然観察コース	9:30	黒木周辺散策
2班	多良岳コース	9:30	黒木~多良岳~金泉寺~黒木
3班	経ヶ岳コース	9:00	黒木~中山越~経ヶ岳~つげ尾~黒木
4班	沢:初級コース	9:00	小川内谷左俣
5班	沢:中級コース	9:00	小川内谷右俣

参加費:宿泊1000円、日帰り300円、 駐車場代500円(1泊)、日帰り(300円)

参加申し込み:会単位で申し込む(締め切り8月24日)

申し込みは松園、坂口まで。

「労山50周年記念講演」

田部井淳子さんの講演会がおこなわれます。

日時:2010年10月2日(土)13:00~16:00 (開場 12:30)

場所:崇城大学市民ホール(熊本市民会館) 熊本市桜町1-3

内容:第一部 田部井淳子さんのお話

「世界の山々を目指して、私の生き方」

第二部 労山女性委員会ミニ講座「山の娘劇場」&山筋ゴーゴー体操

参加費:500円(資料代)



7月・8月の山行報告

7月23日(金)

蛤岳

(参加者) 江崎, 佐原, 佐藤, 松尾(香), 小山, 坂本, 中村, 中野 (8人)

(行程) 7:05 西諫早駅→東背振IC→8:05 坂本峠→九州自然歩道(30分)→11:00 自然歩道・車道合流→11:10 蛤水道→12:00 蛤岳→12:30 下山→15:30 着

(感想)

梅雨も終わり、今日も朝からとてもよいお天気です。少数ではありますが、8人で準備運動をして登り始めた。林道を歩いて10分位した所で、立ち入り禁止の冊があったので何かと思って近づけば、毒物埋没との事。まわりは季節外れのウグイスの声の多い事。

もっと歩けば、あちこちに深い穴があったので、初めはイノシシかなと思えば、人間が山芋をほった後だという事です。後片付けもお願いしたいですね。

ほどなく蛤水道についたが、これは佐賀の三大事業の一つで、田手川の水量が不足するため1615～1623年に蛤岳に水路150mをつくり、大野川からの水を引いた水道です。

現在の水路はコンクリート水路に改修され1077mある。水路を登っていけば12時には蛤岳に着いて昼食。



蛤岳は標高86mで、ここからの見張らしは素晴らしい。山頂には奇岩、蛤岩と呼ばれる珍しい形の巨岩が並んでいる。

又、山頂ではひぐらしの音がせわしく鳴いていた。夏で花も少なく、トラノオとまむし草が山頂付近にひっそりと咲いていた。

ゆっくりと昼食を取って下山。15:30頃帰着。

(坂本三枝子記)

7月25日(日)

背振山系井原山983m、オオキツネノカミソリ鑑賞登山

(参加者) 13名：篠原(CL)、田中静(SL)、兵庫(救助)、坂本(会計)、林田、森(寿)、中須賀(PL)、鎗水(PSL・救助)、金丸(直)、田村(会計)、福岡、外(本田、後田)

(天候)：晴れ暑し(山頂ではやや曇り、残念ながら展望は不良)

(行程) 7時10分西諫早駅発・7時45分高速川登り・8時55分野河内登山口着。
ウォーミングアップののち9時20分出発・

(感想) 沢スジ横のコンクリート道を5分で沢を離れ、竹林の坂道・杉林の道20分・ついで平坦な道5分でこんどは普通の田舎道・ずーと杉林、苔・フェゴの群落。10時頃には早くも路傍にキツネノカミソリ、とんぼ・チョウなど数種を見る。

10時5分過ぎに見事なネムノキの花を見てしばらくで・室見川橋・ついで水無橋を通過。
10時25分駐車場着、案内書の通りここまで1時間、多数の車・鍾乳洞・地質等の案内板あり、休息後いよいよ鑑賞登山。

山道すぐの丸木の橋のたもとにキツネノカミソリ数株。ついで樹林帯の中の登山道・10分ほどでキツネノカミソリに出くわす。

以後づーと単体あるいは群生で生えている。初めはやや開花期過ぎかと思われたが、登るにつれて時期はやや早いのかと思われ、群生も開花は不揃い。

多良岳の群生よりやや見劣る？・不揃いかとも思われる。

生息範囲は多良岳には遙かに勝るよう。

花色は濃い緋色～黄色かがった緋色と変異も多様。キツネノカミソリ鑑賞も1時間以上で終了。

以後は登山道急坂となり、12時少し前に頂上下10分

の地点・昼食には頂上よりここが日陰もあり良いとのことで12時30分まで昼食・休息。

12時30分過ぎ出発・樹林帯を出、尾根に出てドウダンツツジの群落の中を通過、次第にガス空となり雨の心配も。

12時45分頂上到着。登山客は多数。天候は曇り展望は不良。記念撮影等10数分の頂上滞在。

13時に下山開始、雷山方向に5分・滝への分岐から坂道・10分ほどで又分岐・20数名のツアーのお客さんと出会う。あとは下り一辺倒で{庵の滝}の分岐で滝を通過。

15時00分に予定通り井原山登山口(広い駐車場)に全員無事帰り着く。

帰途は唐津経由が早かろうということで、本日の入浴温泉は七山温泉(3時45分～4時15分)・さてあとはアルコール調達と反省会・武雄経由の道を進むもなかなか適当な店なく5時過ぎにやっと調達・反省会・時間も不十分で、本日は歌の時間はなしで6時丁度に西諫早駅に帰着。

(中須賀 記)

8月4日(水)～8日(日)

瀬沢岳・奥穂高岳・前穂高岳

(参加者) 兵庫、篠原、山下、田中静、山崎(元会員) 計5名

(行程) 8/4 諫早 20:19—————8/5 12:00 上高地
8/5 上高地 12:20—13:20 明神 13:35—14:25 徳沢 14:45—15:45 横尾山荘
8/6 横尾山荘 5:40—6:45 本谷橋 6:55—8:55 瀬沢ロッジ 9:40—11:20 ザイデングラード 11:25—13:10 穂高岳山荘
穂高岳山荘 14:00—14:40 瀬沢岳 15:00—15:30 穂高岳山荘
8/7 穂高岳山荘 5:30—6:30 奥穂高岳 6:45—8:50 紀美子平 9:20—10:00 前穂高岳 10:40—11:00 紀美子平 11:10—13:30 岳沢小屋
岳沢小屋 16:15—天狗沢花畑—17:20 岳沢小屋
8/8 岳沢小屋 6:15—8:45 上高地 (アルペンホテル入浴) 9:30
上高地 10:10—————20:39 諫早

(感想) 上高地～横尾山荘

奥穂よ、今度は登るぞ！

5日正午過ぎ上高地に着く。ここは標高1500m、諫早での連日のうだるような暑さが嘘のようだ。登山者や涼を求めてやってくる多くの観光客で賑わっている。

登山準備を済ませ早々に河童橋へと向かう。河童橋にはライブカメラが据え付けてあり今の河童橋の状況がパソコンで見ることができる。鎗水さんが自宅でその映像を見ており、画像を取り込んでくれることになっている。打ち合わせ時間は12時30分。ジャストタイムに、梓川上流に向かって橋の左側に立ち、携帯電話で交信しながら鎗水さんの指示を受ける。「橋の石段に立って」とか、「もっと右によって」とかの指示に従いハイポーズ。



はじめての試みであり出来上がった写真が楽しみだ。また映像は全国配信されているので、知人の誰かが見ている連絡でもしてくれればウレシイナ。

奥穂高岳は3年前に計画し、出発3日前の最後のトレーニングで左足踝を骨折しドタキャンとなった。さらに去年は涸沢小屋まで行きながら、悪天候で撤退するという私にとっては因縁深き山である。今回は去年のリベンジであり3度目の正直だ。また体力的なことを考えるともう次はないだろう。今回で絶対達成しなくてはならない。幸いこの数日天気も良いし後2～3日は持ちそうだ。高ぶる心を抑えながら横尾へ向かう。

途中すれ違う登山者から「この先で田部井淳子さんに会えるかもしれませんよ」と教えられて間もなく、NHKテレビでもお馴染みの女流登山家「田部井さん」と行き会う取り巻きのお供もなく一人で歩かれていたため、先の情報が無かったらもしかして気づかずに通り過ぎたかもしれないと思う。挨拶をしながら篠原さんと山崎さんはチャッカリと握手をしてもらっている。うらやましい限りだ。

横尾までの道は3年続けて歩く。梓川にそった起伏の少ない遊歩道はさほどキツサもなく計画通り横尾山荘に着く。滑り出しはいたって好調。お風呂のある山小屋として有名な横尾山荘、ゆっくりと入浴して身体をほぐし、明日からの本格的に厳しい登山に備える。

(兵庫記)

(感想) 横尾山荘～穂高岳山荘

起床4時半。天気晴れ。5時からの朝食を早く並んで食べる。昨夜はビールと風邪薬であつという間に眠ってしまった。少し咽が痛い他は快調。自然、足が進む。本谷橋までは1時間くらいで着いてしまった。ここからは少し急登。ゆっくり登った。涸沢ヒュッテでゆっくり休む。景色も最高。早めのランチにする。横尾からの弁当はいつもパンとソイジョイ等、咽の乾くものばかり。野菜ジュースもあるには有る。さて、ここからは問題のザイテングラード。ドイツ語で小さい尾根という意味らしい。ここはゆっくり行くしかない。登る人も下りる人もやたら脇に寄って道を開けようとする。よけて待たれるとこちらも休むチャンスを無くした気がする。1時10分穂高岳



山荘に着く。雄大な景色にただただ感動を覚える。後から来た4人はタンクの様な物に張り付いた雪渓に顔を押し付けたりしていた。少し休んで空身で澗沢岳へ。浮石が多いのでコースを慎重に選びながら40分で頂上。はじめは韓国の20名程の団体で占拠されていた。ガイドの若い女性は日本語が通じてカメラのシャッターをおしてもらおう。篠原さんはいつのまにか名前も覚えていた。(笑い)

山荘の庭はまるで銀座2丁目のカフェテラスのごとく人だかりだらけ。言葉を聞いてて日本語と分かり話し出す。兵庫県の仲間だった。明日のコースをきびしいとおどされる。さあ、どうなるかな、、、。夕食を呼ばれて山荘に入る。明日はいよいよ奥穂高である。

(山下記)

(感想) 穂高岳山荘～岳沢小屋

8月7日、晴れ。気温少し低く、肌寒さを感じる。出陣の前といった感じだろうか。

山荘をでるとすぐ岩登り直登である。先人達が岩にしがみついている。そのうち私達もしがみつき仲間へのめりこんでいく。全身で登る。力づくで上へ上へと。下は見ない上へ上へ奥穂へ。今、頂上に立っているのは俺である。人はいるのに一人だけのような気になる。奥穂高岳の頂上には何が有るのだろう。祠がある。お参りをし、写真のポーズを2,3回取ったら、次から次へと人が登ってきてわれわれはトコロテン式に前穂高方面へとおしだされる。前穂高へ、紀美子平へと歩き出すしかない。



振り返って奥穂頂上をながめる。少し笑って「また会えるよ」とにひるに呟く。

稜線を人々がずっと進んでいく、、、外国の人もツアーで来ているようだ。お隣の国の人々である。にぎやか、カラフル、若い女性はいつ会っても「花」である。

紀美子平でザックを置き前穂高岳に登った。これで3座目。3千メートル級。

みんなの顔にも笑みが生まれ始める。これまでの思い出がこみあげて来てるのだろう。

クライマーさん達と少し話をした。装備で10キロはあるそうで、とてもとてもかなわないと思った。

さあ、後は岳沢小屋まで下りに下りるのみである。重太郎新道を。

岳沢小屋が見え出したら安心感と足の疲れがどっとでた。麻痺した感じもするが歩けるから大丈夫だろう。

岳沢小屋は小じんまりしていた。でもゆっくりできて疲れがとれた。夕食の間まで時間があるので近くのハクサンフウロの咲き乱れる天狗沢までいってみる。クルマユリなども咲いていた。

夕食時に大阪のおっちゃんと話がはずむ。これも山旅の楽しみである。山はこれがいいのだ。俺を奥穂高岳まで連れて行って下さった皆様、楽しい山行、ありがとさん! ごくろうさん! 幸さん!。又、行こうね、僕をつれて行ってね。(篠原弘二)

(感想) 岳沢小屋～諫早

今日は最終日です。昨夜は再オープンしたばかりの新しい岳沢小屋泊りとなり、同室となった松戸からの4人のパーティと消灯近くまで話が弾んだ。

5:00起床、朝食後6:15小屋出発

天気は今までの行程中ずっと恵まれており、最終日も朝から晴れて雨の心配はなかった。早朝の涼しい道を上高地に向かって下る。時折ガレ場があったりしたが、比較的歩きやすかった。

途中、登ってくる人と何人もすれ違う。昨日下ってきた重太郎新道の急勾配・岩場を思い、それを登る人たちに「頑張っ！」と言いたくなった。私個人としては、あの急勾配を登りのコースに入れず下りのコースに入れることにした計画は正解だった

と内心思った。すれ違った一人が「ちょっと下で野生のカモシカを見かけましたよ。」と教えてくれたので、みんなでどこにいるのかと探しながら下っていると、涸れ沢にいました。ただ私たちとは反対のほうへ進んでいてなかなかこっちを向いてはくれなかった。沢の向こうにたどり着くと、まるで私たちの気持ちを察したかのように、こちらを向いてのポーズ。シャッターチャンスとばかりにパチリ！親切な登山者さん教えてくれてありがとう。

さらに下っていくと、大木が横たわっていた。道が見えず間違っただのではと先頭に行く山下さんが兵庫さんに問いかける。この道で間違いのないという言葉に従い、大木を超えて進んでいくと道があった。兵庫さんが「あそこに標識があるよと言ったので振り返ってみると確かに標識があった。その標識は登る人には見やすいが、下る人には気づきにくいので、もう少しどちらの方向から来てもわかるようにたててくれればと私は思った。

08:45上高地着、岳沢小屋から2時間半を要した。

アルペンホテルで汗を流し、この涼しい山から諫早の暑い日常に帰りたくないと話した。ホテルで職場や家族にお土産を買い、さあ帰路へ。バスに乗り、電車に乗り、松本駅で駅弁を購入し、JRしなの12号に乗り継ぐ。車内では登山姿の女性グループと一緒にになり、話してみると佐賀からの方々でした。彼女たちは北アルプス裏銀座縦走を1週間の日程でしたそうで、1日10時間以上歩いたと聞き感心した。「私たちは平均年齢65歳なんですよ」とさりげなく微笑まれたのが印象的だった。経ヶ岳にもよく登られると言っていたので、いつかまたお会いすることもあるかと楽しみです。

しなの12号が05分遅れたため、新幹線のホームへ急ぐ。何とか間に合いのぞみ3号に乗り、博多18:44着。予定通り特急かもめ45号に乗り継ぎ自由席しか取れなかったが運よく座ることができ20:39諫早着。

初めて3000m級の山を経験でき感激しました。天候にも恵まれ幸でした。計画をたて色々事前準備して下さった兵庫さん、いつも皆を笑わせ疲れを吹き飛ばして下さったムードメーカーの篠原さん、細やかな心配りとサポートをして下さった山下さん、山崎さん。みなさんのおかげで怪我なく山を楽しむことができました。

皆様、お疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。

(田中静香記)

(感想) 全体を通して

去年槍ヶ岳を目指して頑張っって槍ヶ岳山荘まで行く事が出来たのにととうとう槍ヶ岳の頂上に立つ事が出来ず悲しい想いをしました。

あれから一年。今年もオレンジHCの方数名で穂高岳縦走に挑戦されると聞いたので私も仲間に入れて頂いて同行させて貰う事になりました。二度目のアルプス挑戦です。



12キロの荷物をザックに詰め込み涸沢岳、奥穂高岳それに前穂高岳目指して出発です。山下さんは風邪引きの為体調がイマイチ優れない様子。憧れのアルプスゆっくり山を堪能しながら歩きました。

涸沢岳、奥穂高岳そして前穂高岳と標高の3000メートル峰3座を駆け巡って上高地に下山するコースは国内でも厳しい岩稜縦走路の一つだとか。それを登頂出来たので本当に嬉しかったし自信にも繋がりました。

花の名前はなかなか覚えきれず山下さんにいろいろ教えて頂きました。今回は軽度の高山病にもかからず毎食の食事も美味しく頂きました。山登りはとてもきつかったけど好きな岩や鎖など使って登れてやったーって感じです。なにはともあれ4日間天気には恵まれて怪我もなく下山できて本当に良かったです。

この山行の計画を立ててくださった兵庫さん、リーダーの篠原さん、山下さん、田中静香さんお世話になりました。ありがとうございました。またご一緒出来たら嬉しいです。

(山崎幸子記)



8月7日(土)～8日(日)

多良山系縦走 経ヶ岳(1076m)～笹岳(945m)～多良岳(983m)～中岳(960m)～

五家原岳(1058m)～大花山(875m)～二合半岳(799m)～鳥甲岳(769m)

(参加者) 川原、福岡、岩田、國分

(行程) 7日黒木駐車場集合(経ヶ岳登山口)9:40・発10:05～つげ尾峠着12:12～経ヶ岳登頂12:47～(昼食)～中山越着13:56～笹岳登頂14:32～多良岳登頂15:35～金泉寺小屋着16:03

(行程)8日金泉寺小屋発7:40～中岳登頂8:29～五家原岳登頂9:13～横峰越着9:51～大花山登頂11:02～二合半登頂11:39～(昼食)～鳥甲岳登頂13:21～板川内駐車場14:54～黒木駐車場着15:10

(感想)7日晴れ

今回は久しぶりに一泊二日の長丁場の縦走山行である。しかも、全員15kg前後のボッカとなれば大変である。顔触れは当会員の中では健脚組ではあるが、ここ最近ボッカでの山行がないだけにゆっくりと歩くことにした。

大弘谷から経ヶ岳を目指したが、さすがにガレ場ではザックの重みが肩にくいこんで来る。おまけに湿度も高く風もなく、汗が滝のように流れた。ガレ場で一休みして、水と行動食を補給する・・・だれかが「生き返った」との声がした。

つげ尾に着いてホットする、経ヶ岳の頂上まで後一踏ん張りである。一休みして、「さあ、最後の登り」と声を出しながら足を進めた。

経ヶ岳頂上へ12:47到着。既に数名の登山者がいた。天気が良く郡岳から五家原岳の展望は良かったものの、日照りが強いので木陰に入り昼食を取った。経ヶ岳頂上から直下し、

中山越・笹岳で休みを取りながら多良岳を目指したが、途中「オオキツネノカミソリ」の花がまだ咲いており幾分疲れを癒してくれた。

金泉寺で川原さんは残り、3人で多良岳へ登頂し15:35到着。神様に登山の安全を祈願して早々に金泉寺山小屋に下山した。

金泉寺の庭では他の登山者がテントを張っていた。山小屋の管理人の話では、長崎大学ワンダーホーゲル部で明朝3時に出発するとか・・・

山小屋では他の登山者はなく我々が貸切であった。國分さんの美味しい料理とお酒にホロリ、川原さんが気分に乗って歌い出す・・・しかし、明日のことを考えて早い就寝となった。

8日晴れ

6時起床。朝食を取り山小屋を7:40出発。

朝の歩きは少し涼しく感じられる。昨日よりザックも食料が減った分軽いが装備等が入っておりまだ重く、しかも今日は長丁場である。

中岳の登り、五家原岳の登りに息をはずませながら五家原岳頂上へ9:13到着。展望も良く郡岳・経ヶ岳・多良岳・大花岳・鳥甲岳の峰々がすっきり見える。日照りが強くなってきたため早々に出発。横峰越で休みを取り大花山を目指す。20分登ったところで三角点が出来たため大花山と思うが標識がない。半信半疑ながら前へ進む。アップダウンを繰り返しながら上がりの途中で後方の國分さんの悲鳴と、福岡さんの「mamushi、mamushi」の音が聞こえた。川原さん、自分も振り返ってみると大きいmamushiではないか・・・落葉の色と似ていたため川原さんと自分はわからないまま通り過ぎたのではないかと・・・それから全員が用心のため枝でストックを作り、落葉をたたきながら前進した。三角点から40分前進したところで、大花山と二合半岳の分岐点の標識があった。分岐点から5分程歩いたところで大花山の標識があり11:02の到着となった。頂上は林に囲まれて展望は良くなかった。分岐点に引き返し、更にアップダウンを繰り返しながら二合半頂上へ11:39到着。頂上で休みも取らずに5分程前進したところの木陰で昼食を取り、最後の登りに苦しみながら鳥甲岳頂上へ13:21到着。展望は一部分で良くなかったが、一休みして下山し黒木駐車場へ15:10到着。

暑い中、全員ボッカをしておの縦走は良く頑張りましたね・・・(岩田光雄記)



ウバユリ



空海が彫ったと言われている仏像
金泉寺所蔵 (平安初期)

北アルプスの花たち



イワオトギリ



イワギキョウ



ウサギギク



キバナノヤマオダマキ



クガイソウ



クサボタン



クルマユリ



ゴゼンタチバナ



コバギボウシ



シシウド



センジュガンピ



ソバナ



イワタバコ多良にて



オオキツネノカミソリ多良にて



クサアジサイ



コバイケイソウとヨツオシオガマを見ながら遠くに涸沢ヒュッテを望む 8月6日

おれんじニュースNo246	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2010.8.24
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



多良岳の巨樹アカガシ